

馬頭最終処分場建設検討委員会 第2回議事録

1 日時

平成26年2月12日（水）13:00～

2 会場

栃木県総合文化センター 第3会議室

3 次第

- ・ 開会
- ・ あいさつ
- ・ 議題
 - (1) 埋立位置について
 - (2) 埋立容量について
 - (3) 埋立方式について
 - (4) 施設配置について
 - 搬入道路
 - 関連施設
- ・ その他
- ・ 閉会

4 出席者（敬称略）

- (1) 委員 柿井委員長、青木委員、伊藤委員、堀委員
(小金澤委員、長尾委員、小峰委員、藤吉委員 欠席)
- (2) 事務局 野澤参事、北村室長、武藤主幹、加藤室長補佐（総括）、外馬頭処分場整備室職員、町環境総合推進室職員、コンサルタント職員

5 配布資料

第2回馬頭最終処分場建設検討委員会 資料

6 議事

(開会告知)

- ・ 加藤室長補佐（総括）により、開会告知、出席委員数を紹介

(野澤参事あいさつ)

- 前回10月21日の第1回委員会では、基本方針、及び基本設計にあたっての進め方などについて御助言等をいただいたところです。

- これらの御助言等を踏まえ、最終処分場建設の骨格となる埋立位置、埋立容量について整理して参りましたので、御説明させていただきます。忌憚のない御意見、御助言のほど、よろしく願いいたします。

(議事進行)

- ・ 柿井委員長により、議事進行

(柿井委員長あいさつ)

- ・ 柿井委員長： 御紹介いただきました宇都宮大学の柿井でございます。本日は委員の先生方には、お集まりいただきありがとうございます。

皆さんのお手元には、既に資料が配布されていると思いますが、今日の議題である、埋立位置、埋立容量、埋立方式、施設配置について、県の方で整理した結果を踏まえ、これに対する皆様の意見をいただきたいと思います。

本日の委員会が、今後の馬頭最終処分場の設計等の一助となればと思います。

- ・ 柿井委員長： 議論に先立ち、注意を申し上げます。当検討委員会では、「附属機関の設置、及び運営に関する要項」の第8条に準じ公開とします。

(議 事)

- ・ 議題1 「埋立位置について」説明者 荒井主査
- ・ 議題2 「埋立容量について」説明者 荒井主査

- ・ 青木委員： 今回選定された場所は、今までボーリング調査は行われていなかったのか。
- ・ 事務局： 中央部ではないが、周辺部で3箇所行っています。また、過去に、電気探査を行っており、それから予測した図面が推定A-A'断面図です。
今後、埋立地において、さらなるボーリング調査を実施していきます。
- ・ 堀委員： 平面的に見ると、埋立地予定地は、尾根と谷筋の広い場所に配置されているため、良い位置だと思う。
- ・ 柿井委員長： 前回の埋立地は、備中沢の上に造る計画であったが、備中沢が外れたことは、結果的に良い方向である。
- ・ 青木委員： 地盤の安定も重要であるが、3.11の地震時、崖崩れなどはあったか。
- ・ 事務局： 備中沢の尾根より西側で1箇所、崩落が見られた箇所がありました。しかし、備中沢東側（予定地）では、崩落した箇所はありませんでした。
- ・ 柿井委員長： 本日欠席の小峯委員から、防水シートについて十分検討するよう指摘がありました。
2つ目の議題である埋立容量についてはよろしいか。
- ・ 伊藤委員： 過去の、生態調査の結果では、旧埋立地の方にキンラン、ギンランが多かったようだ。今回の埋立地位置ではどうか。
- ・ 事務局： 平成18年のアセスの結果を見ると、少ない結果となっていますが、現在、

植物・動物調査を実施しているのです、その結果も踏まえ、保全措置等について検討します。

- ・ 柿井委員長： 議題1、2については、意見も出尽くしたようなので、県が整理した方向で作業を進めてほしい。

- ・ 議題3「埋立方式について」説明者 荒井主査

- ・ 事務局： 本日欠席の小金澤委員から、クローズド型は内部が外から見えないため、適切な情報公開が必要になるとの御意見をいただいています。
また、藤吉委員から、浸出水の脱塩処理において、発生する塩類の処理方法について検討すべきとの御意見を事前にいただいています。
- ・ 柿井委員長： 屋根の高さは、どの程度を想定しているのか。
- ・ 事務局： 設計は、今後の検討となりますが、埋立終了時の地盤高から、重機が動かせる分の高さを確保するため、空間として概ね10～15mほどではないかと思われま。しかし、構造的にどこまで高さを取れるのか、今後検討します。
- ・ 伊藤委員： 設計について、従前の埋立面積は6haで、今回の埋立面積は5haに変わりますが、集中豪雨も考えられ、降雨強度の検討が必要になる。
もう一点は、底盤にかかる圧力である。オープン型では、圧力は概ね均等であるが、クローズド型では、柱部分と遮水シートとの接続部の設計・施工に注意が必要である。
- ・ 事務局： 他県でも工夫されており、設計上のポイントとなっています。十分、留意しながら進めます。
- ・ 堀委員： クローズド型において、上部を屋根で覆うのは理解したが、処分場の建物底部もしっかりとした対策を施してほしい。
- ・ 柿井委員長： 地盤の締め固めと、複数枚のシートの接着について、設計と施工でしっかりできれば良いと思う。
- ・ 事務局： 遮水シートは、一つの大きなポイントとなるので、多重安全システムとなるよう、今後、設計の中で検討します。
- ・ 柿井委員長： 今回の最終処分場は、全国的にみても規模は決して小さくない。慎重な対応をお願いします。
- ・ 青木委員： 遮水について、従前計画と同等の性能を確保とあるが、安全・安心のためには、従前と同じ遮水構造を採用した方が良いと思われるが。
- ・ 事務局： 遮水の詳細な検討については、第3回委員会を予定しています。オープン型では、遮水シートが太陽光に晒される、集中豪雨の際に水が溜まるという点がありますが、クローズド型では、それらを屋根で防ぐことができるものと考えています。
- ・ 青木委員： 了解した。前回から時間もたっているのです、最新の技術も踏まえ、しっかりと遮水を考えてほしい。
- ・ 柿井委員長： 法面も含めて、遮水をしっかりとやるべきである。

- ・ 柿井委員長： 議題3については、意見も出尽くしたようなので、県が整理した方向で作業を進めてほしい。
- ・ 議題4「施設配置について」説明者 荒井主査
- ・ 伊藤委員： 覆土置場を造成する際、にごり水が発生するが、その対処について検討しているのか。
 また、防災調整池の擁壁工事に伴い、発生するにごり水の対策については、アセスにおいても検討してほしい。
 管理棟の面積の確保について、北沢地区不法投棄物の中間処理施設の設置が関わってくる。
 最後に搬入道路について、管理区域はどこからか。出入り口の門がつくのはどこなのか。また、町道備中沢線の管理区分は検討されているのか。
- ・ 事務局： 覆土置場につきましては、埋立地や管理棟造成の発生土を有効に活用する予定です。
 また、埋立地等の工事に伴うにごり水について、沈砂地を作るなどして、下流の備中沢に影響しないよう、十分注意します。
 管理棟の面積について、北沢地区不法投棄物の中間処理施設も踏まえ、どの程度確保できるのか今後検討します。
 道路の管理区分については、町道備中沢線の利用者もいるため、完全なシャットアウトはできないと考えますが、町道は町管理となるため、門の位置等、町との協議を進めます。
 最後に、県道と町道及び町道と埋立地に向かう道路との交差点設計については、町や警察と協議を進めます。
- ・ 青木委員： 埋立位置は、前回調査で貴重種が少ない場所であったが、今回のアセス調査でも、動植物についてより詳しく調査してほしい。
- ・ 事務局： 改変するエリアが明らかになってきましたので、注意して調査を進めます。
- ・ 柿井委員長： にごり水については、検討が開始された状態と考えてよろしいか。
- ・ 事務局： 施工計画の際に、下流に影響が無いよう配慮します。
- ・ 柿井委員長： 次回委員会から、もう少し踏み込んだ議論になると思う。
- ・ 堀委員： 建物の形状について、正方形に近づけることは可能か。容量が増えると思われる。
- ・ 事務局： 再度、測量を行う予定なので、周辺への影響等に配慮しつつ再精査します。
- ・ 伊藤委員： クローズド型は、内部状況が見えにくいいため、情報公開に留意してほしい。
- ・ 事務局： 本日欠席の小金澤委員からも、同様の意見をいただいております、適切な情報公開できるよう検討します。

- ・ 青木委員 : 備中沢西側の利用方法を検討すると良い。
- ・ 柿井委員長 : 議題4については、意見も出尽くしたようなので、県が整理した方向で作業を進めてほしい。
- ・ 柿井委員長 : まとめになるが、全国的にクローズド型処分場が増えてきたことや、昨今の異常気象等を考えると、クローズド型は良い考えである。
本日は、設計・施工の概略について検討した。次回以降、具体的な議論を進めていきたい。

7 その他

- ・ 次回の検討委員会の日程は、新年度で調整中ですので、後日連絡いたします。

—以 上—